

1. プログラムの問題点・課題点

第1回の学生派遣を終え、下記の点についての課題が挙げられる。

1) 派遣学生の健康管理および安全管理

2) 派遣時期のマッチング。学内、派遣国別、派遣先大学別のマッチングが必要：

本申請プログラムは教育系院生と他研究科院生をペア・ユニットにして派遣するものである。このため学内での派遣時期のマッチング、派遣国及び個々の大学別にセメスターが異なることによる派遣時期のマッチングを入念に行う必要がある。

3) 派遣および受け入れの分野のマッチング： 上述のように異なる分野のペア・ユニットのため、派遣および受け入れ時の分野のマッチングが課題となっている。

4) 派遣先大学の役割： 本プログラムは ASEAN の学校での教員研修が主眼であるため、受け入れ先大学の役割が不明瞭になっている点。

2. グッドプラクティスの事例

H24 年度派遣計画をグローバルジャパンカリキュラムに基づき、事前研修より帰国後成果報告会までを無事終了した。インドネシアの新聞に現地活動が載るなど好評を博した。特にこの中で成果としては1) この研修を機会に海外留学を決意した院生が出てきた。すでに留学準備のための海外研修プログラムに参加した者もいる。2) 派遣先の大学から交流した学生が日本への留学を決意したものが出てきた。実際留学したのも1名おり、また、千葉大学の研究室を訪問するなど新たな交流が始まっている。

教育プログラムとしての成果としては、教育系と他の理系研究科の院生の学際的な交流により双方に研究・教育に対する意識の革新が芽生えた。理系と文系の融合による新たな人材開発がおこなわれることが期待される。

さらに理系研究科院生にとっては自己再発見につながり、自身の研究の位置づけを再確認することができた。また教育系院生にとっては、日本の教育制度・内容を他国と比較し、相対化して問題点を考える契機を得るなど、日本での教育実習とは異なった経験を得た。